

4

都市づくりの基本方針

4.1 基本方針

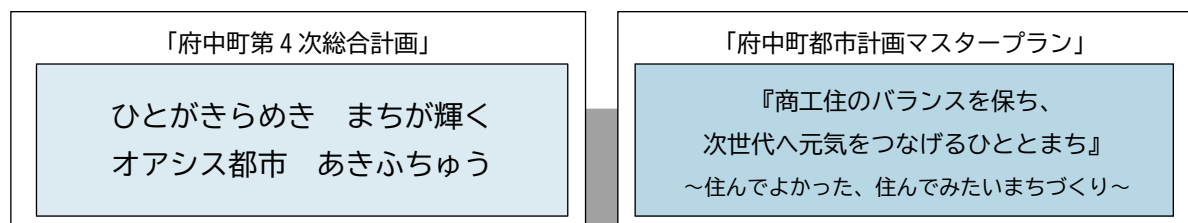
当町はコンパクトな市街化区域内に良好な居住地が形成され、公共交通ネットワークも概ね充足しています。また、人口は今後も 5 万人規模の人口水準を維持していく見通しであり、市街化区域内の人口密度も高水準を維持していくと考えられます。

一方で、全国的な傾向と同様に高齢化が進展していくと予想され、都市機能、産業、地域コミュニティ、自治体運営などに大きな影響が出る可能性があります。さらには近年頻発・激甚化する災害への対策は大きな課題であり、引き続き、洪水や津波、土砂災害への対策を行うとともに、今後発生が想定される南海トラフ巨大地震を見据えた安心・安全な市街地形成が求められています。

このような中、上位計画である「府中町第 4 次総合計画」及び「府中町都市計画マスタープラン」の将来都市像を実現するためには、高齢化の進展や多様なライフスタイルの実現などの課題に対応しながら、現在の良好な住環境を維持し、住み心地が良く誰もが便利で安心して暮らすことができる、持続可能なまちづくりを進める必要があります。

以上を踏まえ、本計画では、上位・関連計画の将来都市像と整合を取りながら、『住んでよかった、これからも住み続けたい』と実感できるようなまちを目指していきます。

【上位計画における将来都市像】



【本計画で解決すべき課題】

- ① 多様な人や世代にとって住みやすい居住環境の維持
- ② 町の核となる拠点の形成及び計画的な土地利用
- ③ 生活サービス機能の維持・向上
- ④ 都市機能増進施設などの集約による効率化
- ⑤ 都市拠点や都市機能にアクセスしやすい公共交通の維持
- ⑥ 激甚化する自然災害への対応

『住んでよかった、これからも住み続けたい』
と実感できるまちの実現

4.2 誘導方針

基本方針を踏まえ、居住や都市機能の誘導を促す方針を以下のとおり設定します。

都市づくりの誘導方針

方針①

多世代にわたって住みやすい環境を維持

- 当町が持つ良好な居住環境の維持・向上を図るため、現在の居住地を踏まえた居住誘導区域を設定します。
- 新しいライフスタイルやユニバーサルデザインのまちづくりに配慮し、多様な人や世代の誰もが快適に、永く暮らせる住みよい居住環境の形成を図ります。

方針②

「住み続けたいまち」として、さらなる魅力の向上

- 住民の日常生活の拠り所になっているイオンモール広島府中や町役場周辺を中心拠点として都市機能誘導区域に設定し、生活利便性の向上や賑わいを創出します。
- 町内唯一の鉄道駅である JR 向洋駅周辺を地域拠点として都市機能誘導区域に設定し、駅前広場およびそれに隣接する幹線道路等の都市基盤整備と既成市街地の再編による宅地の利用増進を図り、町の玄関口にふさわしいゾーンを創出します。

方針③

多様な人や世代、ライフスタイルに対応した都市構造の構築

- 子育て世代や高齢者のみならず、誰もが暮らしやすいまちを推進するため、中心拠点や地域拠点に都市機能を適正に誘導し、生活利便性の維持・向上を図ります。
- 公共施設の集約や複合化により、効率的な運営を図ります。
- 居住地から都市機能誘導区域への円滑な公共交通ネットワークの構築を図ります。
- 都市機能誘導区域では、徒歩や自転車で移動しやすい拠点形成に取り組みます。

方針④

要配慮者の増加などを踏まえた災害に強いまちへの転換

- 居住地における防災の安全性を高めるため、居住誘導区域内の防災・減災対策を関連計画と連携して行います。
- 居住地に分布する災害ハザードエリアを住民に明確に伝えるとともに、防災だけでなく減災についての施策を改めて確認し、災害リスクの低減に向けた取り組みを進めます。